

努力目標

- ① 自立活動の指導力向上を目指すとともに、「自閉症指導スタンダード」の確実な実践を目指す。
- ② 目標検討会、評価会等を円滑に運営し、実態把握から授業改善までのPDCAサイクルによる自立活動の授業実践を目指す。
- ③ 保護者への自立活動の指導に関する理解啓発を進める。また、リハビリ見学など関係機関との連携の強化を図る。

努力目標に沿った部の取組

① 自立活動の指導力向上を目指すとともに、「自閉症指導スタンダード」の確実な実践を目指す。

各部門における自立活動の指導について

○知的障害教育部門（あたご部門）

あたご部門では、実態把握チェックリストなどを活用して個々の課題を整理し、一人もしくは少人数に分かれ時間を設定して行う指導（時間における指導）と学校教育全体を通じた指導を行っています。

- Aさん**
(ねらい)
- ・ 10分程度集中して、手先を使った活動に取り組むことができる。
 - ・ 「どうぞ」や「ありがとう」のやりとりができる。
- (具体的な指導内容)
- ・ 友達と協力するゲームや、気持ちを考える学習の中で、相手に気持ちを伝える。
 - ・ 手元を見ながら抜いたりさしたりするゲーム性のある活動に取り組む。



- Bさん**
(ねらい)
- ・ 言葉を明瞭に発音したり、手話やサインを使って、相手に分かるように伝えたりする。
- (具体的な指導内容)
- ・ 口周辺の体操（口形の模倣、舌の動き）を行う。
 - ・ 折り紙や画用紙を小さく切ったものを、息をコントロールしてストローで皿へ移す。



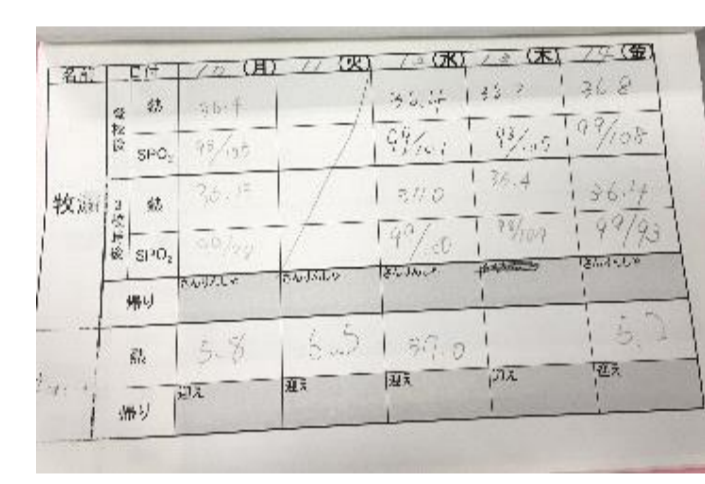
○肢体不自由教育部門（わかくす部門）

わかくす部門では、各部や教育課程ごとに時数を設定して、時間における指導を行っています。肢体不自由であることから「身体の動き」を中心とした指導が多くなりますが、それだけではなく、個々の実態に合わせて様々な課題と関連を図りながら指導に取り組んでいます。

- Cさん**
(ねらい)
- ・ 15秒間程度、両手をついたあぐら座位を保持することができる。
- (具体的な指導内容)
- ・ あぐら座位や腰掛け座位で、体幹や頭部を起こした姿勢を保持する。
 - ・ 座位で、両手をついて身体を支える。



- Dさん**
(ねらい)
- ・ 毎日の健康チェックより、自己の健康状態を把握し、伝えることができる。
- (具体的な指導内容)
- ・ 毎日のバイタル等をパソコン入力することで、自己の健康管理を行う。



自閉症スタンダードについて

「自閉症指導スタンダード」は、本校において自閉症児に関わるときに必要な共通のスタンス（学校としての自閉症児指導の指標）を示したものです。

本校職員のアンケートを基にしなが、プロジェクトチームで優先順位をつけて、10項目のスタンダードを平成29年度版として決め、作成しました。

スタンダードの項目については、10項目のそれぞれに「特性理解」「特性から考えられる対応」「指導例」を挙げています。自閉症児の指導に初めて携わる先生方にも分かりやすいようにまとめており、自閉症児の指導においては、必ず押さえておかなければならないこととして、常にこの10項目を念頭に置きながら、普段の指導・支援に当たるよう共通理解しています。



自閉症スタンダード10項目

1. 説明や指示は、簡単に、かつ具体的にしよう
2. コミュニケーションスキルを高めさせよう
3. 予定変更は、本人が分かる方法で伝えよう
4. 「いつ」「どこで」「何を」「いつまで（どれくらい）」「どのように」「終わったら、次は何をするか」を明確に伝えよう
5. 独特の感覚があることを理解しよう
6. 教室の掲示などをシンプルにしよう
7. 様々な場面で使えるスキルを育てよう
8. 「こだわり」は、本人の「不調」「不安」のサインとしてとらえよう
9. 気持ちを切り替える方法や、コントロールする力を身に付けさせよう
10. その行動が適切であったか振り返らせよう

1 説明や指示は、簡単に、かつ具体的にしよう

なぜ？ (特性理解)

- ・ 同時に二つ以上の事柄を意識することが難しい。
- ・ 説明や指示の中から、大切なポイントを抽出することが難しい。
- ・ 「ちゃんと」「しっかり」等のような、抽象的な言葉の理解が難しい。

だから…

□指示の内容は、一文一つ（一文一動詞）にする。
□指示は短く、余計な情報はできるだけ省く。
□具体的な言葉を使って伝える。

指導例

一文一動詞で伝えよう

「〇〇をしたら、次に△△をします」というように、一文二動詞にすると、どこを聞いていいか分からなくなるので、指示の仕方は、「まず〇〇をします」と言いましょう。その活動が終わったら「△△をします」と言うことで、何を指示されているかが明確になります。

指示は簡潔に！余計な情報を省こう！

「脱いだ服は脱ぎっぱなしにしないで、畳で籠に片付けてね」の文で、余計な情報とはどこでしょう。状況により変わりますが、「脱いだ服は脱ぎっぱなしにしないで」の部分だけでなく、「ちゃんと（きちんと）肘を伸ばしなさい」ではなく、「肘から指先までをまっすぐに伸ばしなさい」など、具体的に伝えましょう。言葉による指示が難しい児童生徒には、してほしい状態を視覚的に指示（実際にモデルを示す、肘をまっすぐに伸ばした写真や絵を使用する）することが大切です。

具体的に伝えよう

「ちゃんと（きちんと）しなさい」の「ちゃんと（きちんと）」は、状況によって意味が変わります。このように意味が不安定な言葉を、状況判断して意味を理解することはとても難しいことです。「ちゃんと（きちんと）肘を伸ばしなさい」ではなく、「肘から指先までをまっすぐに伸ばしなさい」など、具体的に伝えましょう。言葉による指示が難しい児童生徒には、してほしい状態を視覚的に指示（実際にモデルを示す、肘をまっすぐに伸ばした写真や絵を使用する）することが大切です。

(留意点)

- ・ 話すスピードや抑揚、リズムで伝わり方は変わります。児童生徒の情報の受け取り方の特性に応じて、話し方や内容を変えましょう。

自立活動の指導の専門性を高める取組

知的障害教育部門、肢体不自由教育部門と2部門あることから、研修が必要な内容が多岐に渡るため、年間で重点的に取り組むテーマを設定し、テーマに沿った研修を中心に年間計画を立て、実施しています。

また、部門の特性に応じた研修会も実施し、部門や部が異なっても参加できるように周知しています。

○平成31年・令和元年度研修テーマ
新学習指導要領と自立活動 ～実態把握から評価まで～

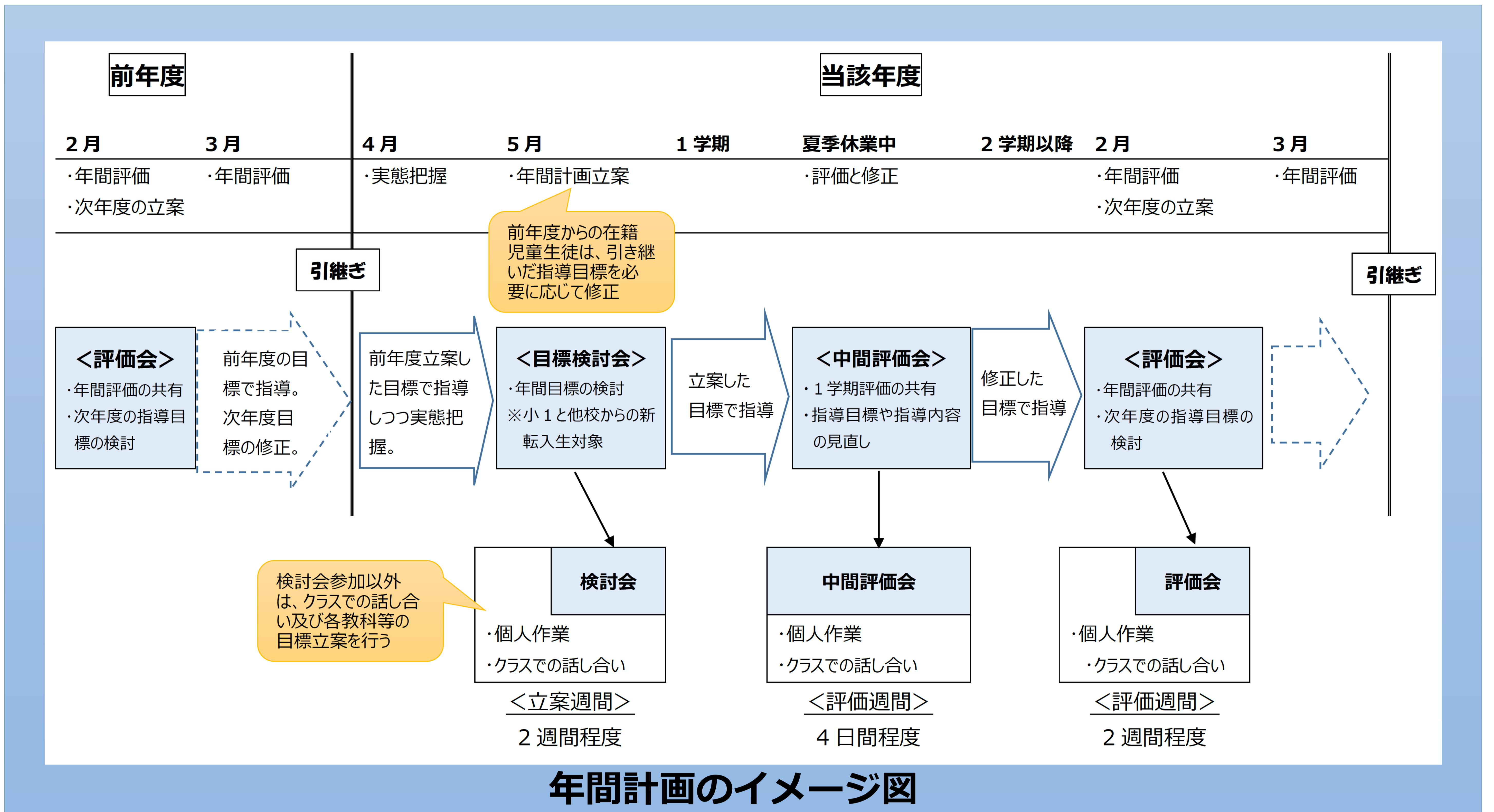
期日	研修内容
4月	<ul style="list-style-type: none"> ○各部門の自立活動について ・ 肢体不自由教育部門（指導体制、ヒヤリハット、基本的事項の確認など） ・ 知的障害教育部門（チェックリスト、指導体制など）自立活動について（意義、目標） ○自閉症教育について（自閉症スタンダードについて）
5月	<ul style="list-style-type: none"> ○発達検査について（自主研修） ※ ビネー、遠城寺、S-M ○個別の指導計画の作成について ～実態把握から中心課題を導き出す手順を中心に～（演習）
7月	<ul style="list-style-type: none"> ○自立活動の指導について（各部門別研修） ・ 子どもの行動を考えたときに見直したいこと（知的障害教育部門小中学部） ・ アンガーマネージメントの指導方法について（知的障害教育部門高等部） ・ 子どもの将来の姿（生活）を見据えたアプローチ（肢体不自由教育部門）
8月	○外部専門家活用事業事例検討会
11月	○自立活動指導における具体的な指導内容の設定について



②目標検討会、評価会等を円滑に運営し、実態把握から授業改善までのPDCAサイクルによる自立活動の授業実践を目指す。

自立活動の指導のPDCAサイクル

本校では自立活動の指導の充実に向けて、目標検討会、中間評価会、年度末評価会を設定しています。各検討会では、児童生徒の自立活動の課題や指導目標、指導内容を複数の視点から検討することで、自立活動の指導の充実を図り、また、学習評価を踏まえて、指導目標や指導内容の修正を行ったり、次年度の指導目標を検討したりすることで自立活動の指導の系統性を担保できるよう取り組んでいます。



③保護者への自立活動の指導に関する理解啓発を進める。また、リハビリ見学など関係機関との連携の強化を図る。

発達障害児等能力開発・教育支援推進事業（外部専門家活用）の活用

地域の外部専門家を活用し、医学的、心理学的などの専門的視点から助言を得ることで、教師の専門性を高めて指導の改善を図るとともに、障害のある幼児児童生徒の指導や支援について研修することで、学校全体の専門性向上と特別支援学校のセンター的機能の強化を図っています。

- 協力いただいている専門家
- 理学療法士
 - 作業療法士
 - 言語聴覚士
 - 臨床心理士
 - オプトメトリスト
 - 歯科医師

個別助言

先生方のニーズと全校で共有することで研修が深まると考えられる事例を各専門家ごとに上げ、実際の指導場面などを通して、年2回の個別助言を行っています。



事例検討会

個別助言を実施した事例に関する協議（個別助言の報告、専門家からの助言、指導改善に向けた協議 など）を通して、医療や心理等の専門的視点を生かした指導に関する教師の専門性の向上を図っています。

